

キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10043001				
授業名	社会福祉の歴史	形態	講義	単位	2
担当教員	藤森 雄介				
開講学期	2025年度 後学期	曜日・時限	水曜6限		
授業目的	日本における社会福祉成立の流れの理解。ソーシャルワークの基礎力としての必要不可欠な歴史的背景や歴史的事実の習得。				
授業内容	歴史を「学ぶ」とは、単なる年号や人名の暗記ではない。一つひとつの歴史的な事柄を全体の流れの中に位置づけながら、自身の現在の立脚点を確認し、そこからどれだけ未来を見据えることができるようになるかが、歴史の正しい「学び方」である。本講義では、日本における主に明治、大正及び昭和戦前期までの近代と呼ばれる時間軸の中で、社会福祉に関連する歴史を学び、それら「過去の蓄積」を現代社会にどのように活かしていくのかを、共に考えていきたい。				
到達目標	日本における社会福祉に関する歴史的展開過程の基本的理解を通じて、社会福祉士国家試験レベルの知識の習得を目指す。				
ディプロマポリシーとの関連性	<社DP2-(1)> 社会福祉学やソーシャルワークに関する基本的かつ体系的な知識を身に付けている。				
授業形態	講義形式、ただし、学生がわかりやすく理解できるように、随時学生への質問や意見を求める双方向的な授業形態(アクティブラーニング)を取り入れて行う。 基本的には講義形式の授業を行うが、アクティブラーニングの手法を活用する。学生から質問、意見を求めたり、学生によるプレゼンテーションの機会を設けていく。				
事前・事後学習の所要時間	本科目では、各授業回に2時間の事前学習、2時間の事後学習を必要とする。 合計15回の授業で、事前事後学習60時間となる。				
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。				
評価方法	確認テスト(50点)・授業中の小レポート(計20点)・小テスト(5点×6回=計30点)から総合的に評価する。 なお、小レポートは、講義内容の区切りに応じて、2回程度を予定。				
評価基準	確認テスト、50点、授業中の課題小レポート計20点。小テスト計30点。 評価基準 : S:100～90点、A:89～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:60点未満				
試験・レポート等のフィードバック	レポートについては提出後のその出題意図を解説、また確認テストについてはテスト終了後、別途振り返りの時間を設ける。				
注意事項及び履修条件	本科目は社会福祉士受験科目ではないが、本学で社会福祉を学ぶものについては必須の知識を学ぶことが出来る科目である、主体的な学習意欲のある者の受講を期待する。				

S : 100～90、A : 89～80、B : 79～70、C : 69～60、D : 60未満

第1回	
事前学習	シラバス内容の確認
授業内容	本科目の講義の進め方、評価の方法、各回のシラバス確認等を行う。
事後学習	初回ガイダンスで伝えた内容の確認。本講義受講の意思決定。
参考文献	

第2回	
事前学習	前回の内容を再度確認及び、我が国の「古代社会」について、自分なりの知識を簡単に良いので整理しておく。
授業内容	社会福祉史の日本的特徴(1) 明治、大正及び昭和戦前期の内容に入っていき前段階として、日本における近代以前の社会福祉の歴史の概要を学ぶ。具体的には、古代社会と救済制度(律令体制下の救済対象、「律令」の救済制度、律令救済行政の展開等)、中世封建社会と慈善、救済(中世封建社会の救済対象、被差別民について等)、といった内容を取り上げていく。
事後学習	講義内容を踏まえて、①重要項目の整理、②その中で理解できたこと、③充分には理解できなかったこと、を分けて整理する。その上で、特に③充分に理解できなかったことについては、どの部分が分からなかったのかを自分なりに明らかにして、次回の講義の開始前に質問するように準備しておくこと。

参考文献	
第3回	
事前学習	前回の内容を再度確認及び、我が国の「中世・近世社会」について、自分なりの知識を簡単に良いので整理しておく。
授業内容	社会福祉史の日本的特徴(2) 第2回に引き続いて、日本における近代以前の社会福祉の歴史の概要を学ぶ。具体的には、近世封建社会と救済政策、慈善(幕藩体制化の生活と貧困、幕府の慈恵政策、各藩の救済政策、儒教学者の救済思想、経世的救済思想、近世の慈善家)、といった内容を取り上げていく。
事後学習	講義内容を踏まえて、①重要項目の整理、②その中で理解できたこと、③充分には理解できなかったこと、を分けて整理する。その上で、特に③充分に理解できなかったことについては、どの部分が分からなかったのかを自分なりに明らかにして、次回の講義の開始前に質問するように準備しておくこと。
参考文献	
第4回	
事前学習	前回の内容を再度確認及び、我が国の「江戸末期」について、自分なりの知識を簡単に良いので整理しておく。
授業内容	幕末、明治維新の公的救済、慈善(1) 幕末、明治維新の公的救済、慈善について学ぶ。具体的には、幕末、明治維新の救済対象(幕末農村の窮乏、幕末都市の窮乏化、打ちこわし、大塩騒動、明治初年の貧困)、洋学の展開と慈善・救済＝近代化への萌芽(儒教的仁政、仁愛の視座転換、華山と長英、シーボルトとボンペ、初期宣教医の慈善)、恤救規則——「日本型」救済制度の成立(明治初年政府の救済、「恤救規則」の成立、明治初年の地方の公的救済)、といった内容を取り上げていく。
事後学習	講義内容を踏まえて、①重要項目の整理、②その中で理解できたこと、③充分には理解できなかったこと、を分けて整理する。その上で、特に③充分に理解できなかったことについては、どの部分が分からなかったのかを自分なりに明らかにして、次回の講義の開始前に質問するように準備しておくこと。
参考文献	
第5回	
事前学習	前回の内容を再度確認及び、我が国の「幕末・明治維新」について、自分なりの知識を簡単に良いので整理しておく。
授業内容	幕末、明治維新の公的救済、慈善(2) 引き続き、幕末、明治維新の公的救済、慈善について学ぶ。具体的には、児童教育制度及びその他の救済制度(児童教育制度、脱籍無産者取締、行旅病死者救済制度、罹災窮民の一時救済、貧困者の救療制度)、明治開化——人権の夜明け(被差別部落の解放、芸娼妓解放、刑政の改善思想)、明治初年の救済、慈善施設(地方の公的救済施設、仏教慈善施設、キリスト教の慈善施設)、といった内容を取り上げていく。
事後学習	講義内容を踏まえて、①重要項目の整理、②その中で理解できたこと、③充分には理解できなかったこと、を分けて整理する。その上で、特に③充分に理解できなかったことについては、どの部分が分からなかったのかを自分なりに明らかにして、次回の講義の開始前に質問するように準備しておくこと。
参考文献	
第6回	
事前学習	前回の内容を再度確認及び、我が国の「近代社会」の基本について、自分なりの知識を簡単に良いので整理しておく。
授業内容	近代国家の形成と公的救済、慈善事業、社会改良思想の胎動(1) 近代国家の形成と公的救済、慈善事業、社会改良思想の胎動について学ぶ。具体的には、資本の蓄積と「下層社会」の形成(諸階層の分解、窮乏層の流出と前期的労働事情、「都市下層社会」の形成)、公的救済と公的救済思想(公的救済、窮民救助法案、救貧思想)、といった内容を取り上げていく。
事後学習	講義内容を踏まえて、①重要項目の整理、②その中で理解できたこと、③充分には理解できなかったこと、を分けて整理する。その上で、特に③充分に理解できなかったことについては、どの部分が分からなかったのかを自分なりに明らかにして、次回の講義の開始前に質問するように準備しておくこと。
参考文献	
第7回	
事前学習	前回の内容を再度確認及び、我が国の「自由民権運動」について、自分なりの知識を簡単に良いので整理しておく。

授業内容	近代国家の形成と公的救済、慈善事業、社会改良思想の胎動(2) 引き続き、近代国家の形成と公的救済、慈善事業、社会改良思想の胎動について学ぶ。具体的には、慈善事業、社会改良思想の胎動（自由民権思想、プロテスタント、国粹主義、仏教慈善思想）、慈善事業施設、社会改良運動の起点（慈善事業施設の出立、矯風運動）、といった内容を取り上げていく。
事後学習	講義内容を踏まえて、①重要項目の整理、②その中で理解できたこと、③充分には理解できなかったこと、を分けて整理する。その上で、特に③充分に理解できなかったことについては、どの部分に分からなかったのかを自分なりに明らかにして、次回の講義の開始前に質問するように準備しておくこと。
参考文献	

第8回	
事前学習	前回の内容を再度確認及び、「日清戦争」について、自分なりの知識を簡単に良いので整理しておく。
授業内容	日清・日露戦間期の公的救済、慈善事業の成立(1) 日清・日露戦間期の公的救済、慈善事業の成立について学ぶ。具体的には、産業革命と社会問題の開幕（産業革命と資本主義的貧困、戦争と貧困、「都市下層社会」）、公的救済立法と公的救済思想（救貧法案、特別救済立法、公的救済思想）、といった内容を取り上げていく。
事後学習	講義内容を踏まえて、①重要項目の整理、②その中で理解できたこと、③充分には理解できなかったこと、を分けて整理する。その上で、特に③充分に理解できなかったことについては、どの部分に分からなかったのかを自分なりに明らかにして、次回の講義の開始前に質問するように準備しておくこと。
参考文献	

第9回	
事前学習	前回の内容を再度確認及び、「日露戦争」について、自分なりの知識を簡単に良いので整理しておく。
授業内容	日清・日露戦間期の公的救済、慈善事業の成立(2) 引き続き、日清・日露戦間期の公的救済、慈善事業の成立について学ぶ。具体的には、慈善事業の成立、社会改良運動（慈善事業の成立、社会改良運動、慈善事業思想（留岡幸助『慈善問題』、キリスト教社会主義、社会改良思想、福祉と非戦、仏教慈善事業思想）、といった内容を取り上げていく。
事後学習	講義内容を踏まえて、①重要項目の整理、②その中で理解できたこと、③充分には理解できなかったこと、を分けて整理する。その上で、特に③充分に理解できなかったことについては、どの部分に分からなかったのかを自分なりに明らかにして、次回の講義の開始前に質問するように準備しておくこと。
参考文献	

第10回	
事前学習	前回の内容を再度確認及び、「帝国主義」について、自分なりの知識を簡単に良いので整理しておく。
授業内容	帝国「国家」の形成と感化救済事業、社会事業への胎動(1) 帝国「国家」の形成と感化救済事業、社会事業への胎動について学ぶ。具体的には、明治末期、大正初頭の社会問題（労働者生活、農村の貧困、都市細民層、被救済層）、感化救済事業（「恤救規則」の抑制と養老法案、感化法の改正等、感化救済事業講習会、行政関係者の救済事業思想）、といった内容を取り上げていく。
事後学習	講義内容を踏まえて、①重要項目の整理、②その中で理解できたこと、③充分には理解できなかったこと、を分けて整理する。その上で、特に③充分に理解できなかったことについては、どの部分に分からなかったのかを自分なりに明らかにして、次回の講義の開始前に質問するように準備しておくこと。
参考文献	

第11回	
事前学習	前回の内容を再度確認及び、我が国の「慈善・感化・救済・社会事業」という各用語について、自分なりの知識を簡単に良いので整理しておく。
授業内容	帝国「国家」の形成と感化救済事業、社会事業への胎動(2) 引き続き、帝国「国家」の形成と感化救済事業、社会事業への胎動について学ぶ。具体的には、慈善救済事業の組織化（中央慈善協会の結成、済生会の設立その他、地方改良運動と報徳会、協議会・研究会の組織化）、慈善事業施設、慈善事業思想の新気運＝社会事業への胎動（慈善事業施設の新気運、社会事業思想の新動向）、といった内容を取り上げていく。
事後学習	講義内容を踏まえて、①重要項目の整理、②その中で理解できたこと、③充分には理解できなかったこと、を分けて整理する。その上で、特に③充分に理解できなかったことについては、どの部分に分

からなかったのかを自分なりに明らかにして、次回の講義の開始前に質問するように準備しておくこと。

参考文献

第12回

事前学習 前回の内容を再度確認及び、改めて我が国の「明治期」について、自分なりの知識を簡単に良いので整理しておく。

授業内容 大正期のデモクラシーと社会事業の成立(1)
正期のデモクラシーと社会事業の成立について学ぶ。具体的には、社会問題（低額所得層、零細農層、植民地の低所得、細民層、被救済層）、防貧制度の成立と救貧制度の動向（防貧制度の成立、救貧制度の動向）、といった内容を取り上げていく。

事後学習 講義内容を踏まえて、①重要項目の整理、②その中で理解できたこと、③充分には理解できなかったこと、を分けて整理する。その上で、特に③充分に理解できなかったことについては、どの部分が分からなかったのかを自分なりに明らかにして、次回の講義の開始前に質問するように準備しておくこと。

参考文献

第13回

事前学習 前回の内容を再度確認及び、我が国の「大正期」について、自分なりの知識を簡単に良いので整理しておく。

授業内容 大正期のデモクラシーと社会事業の成立(2)
引き続き、大正期のデモクラシーと社会事業の成立について学ぶ。具体的には、社会事業行財政の組織化（救済制度の組織化、社会事業教育、社会事業「方法」の専門化）、社会事業分野の動向、社会事業思想（児童保護の成立、セツルメントと部落解放運動、社会事業思想）、といった内容を取り上げていく。

事後学習 講義内容を踏まえて、①重要項目の整理、②その中で理解できたこと、③充分には理解できなかったこと、を分けて整理する。その上で、特に③充分に理解できなかったことについては、どの部分が分からなかったのかを自分なりに明らかにして、次回の講義の開始前に質問するように準備しておくこと。

参考文献

第14回

事前学習 前回の内容を再度確認及び、我が国の「昭和戦前期」について、自分なりの知識を簡単に良いので整理しておく。

授業内容 昭和初頭の資本主義的危機、準戦時体制への移行と社会事業
昭和初頭の資本主義的危機、準戦時体制への移行と社会事業について学ぶ。具体的には、昭和初頭の資本主義的危機、準戦時体制移行期の社会事業問題（生活不安定の労働者と失業者、零細農とその生活、被救済層の実態）、失業保護と農村社会事業（失業保護、農村社会事業）制定、その他社会事業立法の動向、社会事業の組織化）、資本主義的危機、準戦時体制移行期の社会事業思想（社会連帯思想とその挫折、唯物弁証法的社会事業思想とその転換、ファシズムと社会事業思想）、といった内容を取り上げていく。

事後学習 講義内容を踏まえて、①重要項目の整理、②その中で理解できたこと、③充分には理解できなかったこと、を分けて整理する。その上で、特に③充分に理解できなかったことについては、どの部分が分からなかったのかを自分なりに明らかにして、次回の講義の開始前に質問するように準備しておくこと。

参考文献

第15回

事前学習 これまでの内容を再度確認しておく。

授業内容 まとめ・確認テスト、解説。
これまでの講義内容を踏まえた、確認テスト及び解説を行う。
欠席者に対する追加の確認テスト等は、原則として実施しない。

事後学習 確認テストで出題された問題を手掛かりとして、各自で振り返りを行う。

参考文献

※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。

ディプロマポリシー

<社DP-2>
【社会福祉学分野における知識・技能・態度】
社会福祉学に関する価値、倫理、理論、方法を体系的に理解しそこから培われる福祉マインドを持って、さまざまな実践の場で活用する技能・能力を身に付けている。
<社DP2-(1)>
社会福祉学やソーシャルワークに関する基本的かつ体系的な知識を身に付けている。

<社DP2-(2)>

専門職（社会福祉士や小学校教諭等）に足る知識や技術、福祉マインドを持って、社会福祉や教育をはじめ幅広い分野で活躍する意欲と能力を身に付けている。